

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 28

2018年12月18日（火）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

白梅学園大学の発達・教育相談室のご紹



白梅学園大学 発達・教育相談室 室長 市川奈緒子

私は白梅学園大学の教員の市川奈緒子と申します。専門領域は、知的障害や発達障害のある子どもの支援やそのご家族の支援です。白梅に着任した2010年度までは児童発達支援センター等で心理士として働いておりました。

発達・教育相談室は、2010年度の7月に設立された地域交流研究センターの中に同時に開室しました。以後、初代の相談員である五十嵐元子と、現在の相談員である飯野雄大とともに、小平のこの地で、大学の付属の機関としての相談室が担うべきことを模索してまいりました。紆余曲折はありましたが、現在の相談室が、地域に向けて、または地域と共同でおこなっていることは主に以下の5点です。

1. 地域に開かれた発達相談:地域のお子さんの発達や成長に関わる悩み、ご心配に関わるご相談を受け付けています。
2. 地域に向けた研修会:「支援者のための研修会」と銘打って、年度に2回から4回程度の研修会をおこなって



います。対象者は、地域の関連機関の支援者のかたがたですが、保護者のかたがたも参加されています。

3. 地域の機関に対するコンサルテーション:関連機関に出向く訪問相談活動です。2011年度からは、小平市の公立小中学校の巡回相談員として、すべての小中学校に行かせていただいています。
4. 継続的な個別支援:親子関係の調整・改善や、学習支援のニーズがあるかたがたに対して、ある程度の期間継続支援をおこなっています。これは相談室の研究

小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

活動の一環でもあります。

5. その他の地域との連携: 関連機関の支援者の皆さんが一堂に会する「子どもの発達を支援する連絡会」に参加しています。また、年に1回程度ですが、地域の発達支援の必要なお子さんたちと本学の学生とが一緒に遊ぶ会も開催しています。

改めて地域のかたがたや機関との連携の大きさを感じ、感謝にたえません。今後とも地域の中の相談室として機能していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

「ふくしまキッズ in こだいら」に参加して

白梅学園大学発達臨床学科 2年 小川実生



小平には、ふくしまキッズ in こだいらという「福島の子どもたちへのびのびと外遊びをさせてあげたい」という趣旨ではじまった活動があります。これは、小平の市民が中心になって年に一度行なわれていて、今年は5月のゴールデンウィークのうちの3日間、開催されました。私は今回、白梅子育て広場の卒業生の方からの紹介でボランティアとして参加させていただきました。

私は主に、外で遊ぶ子どもたちと一緒に遊ぶことが多く、普段のプレイパークでも使用されている手作りの遊具で遊んだり、穴掘りをして虫を探したりしました。また、最終日福島に帰るとき、一緒に新幹線に乗って子



どもたちを見送りました。三日間を通して、子どもたちがふとしたときに「こういうこと福島ではできない」といった発言をしていることがあったのが私はとても印象的でした。また、小平の子どもも一緒に遊

んでいて「地震」という言葉がでたとき、少し黙り込んだ子どももいました。私は福島に行ったことがなく、東日本大震災の影響もあまりなかったので遠いことのように感じていました。しかし、7年たった今も、子どもたちは忘れることなく東日本大震災が残したものと戦っているのだと衝撃を受けました。

そのような中で子どもたちが楽しそうにのびのびと遊んでいる姿をたくさん見ることができ、たまにわがままをいってみたり甘えてみたりするようになっていく姿を見て、このような活動の重要性を痛感しました。

NPO ボランティアセミナーに参加して 子ども学科 1年 玉置真生

私は夏休みに NPO 法人花咲き村という団体が

行っている竹林整備のボランティアに参加しました。

担当して下さったのは園田さんという方です。ボランティアの説明を聞いたとき、園田さんの下でボランティアをさせてもらうことで、自分の学びになると思いました。

竹林整備とは、その名の通り竹林の整備です。竹林は手入れをしないと荒れてしまうため、竹を切って横に倒し、他の木も成長できるように整備します。この活動で私がまず出来るようになったらなければならなかった事は、ノコギリを使えるようになることでした。活動の説明を聞いたとき、ノコギリは誰でも使えるものだと思っていました。しかし、実際に使ってみると、思い通りに動かすことができませんでした。それを見た園田さんは私に刃が嫌がっているからだと言いました。私はこのときこの言葉の意味がよく分かりませんでした。

ボランティア最終日。それまでと変わらず竹を切り始めた時、園田さんが、ノコギリを上手に使



えるようになったじゃないかと言いました。竹を切るのに夢中だった私は、初め自分に言われたことに気がつきませんでした。我に返った時、つかかるとなくノコギリを使っていることに気が付きました。この時初めて刃が嫌がっていたという意味が分かった気がしました。

最後の活動を終えた時、次は小刀を使えるようになれと言われていたので、またお願いしようと思っています。

西ネット9月地域懇談会報告



9月25日(火)18時より、今年度第2回(通算31回)の地域懇談会が開催されました。参加者は30名ほどですが、交流を深めました。

◇白梅学園大学学長の話◇

初めにこの4月より白梅学園大学・短期大学の学長に就任した近藤幹生先生から、白梅学園大学・短期大学が目指しているもの、学長として考えていることをお話していただきました。大学が地域社会のあり方を問い直す時期に来ているという視点から、保育・教育・福祉・心理など人間を対象とする分野に関わる学生を育てている白梅として、創立以来76年の歴史をもっていることを自覚する必要があること、80周年の夢の実現に向けて建築委員会等を立ち上げたことが報告されました。

大学が地域社会との関係を大事にすることを基本にして、地域に声をかけていくつもりであること、大学が地域社会をつかっていくという観点から、どう地域の人々に関わって頂くかも重視したい。

原点は国連が1989年に採択し、日本政府が1994年に批准した「子どもの権利条約」を教員も生徒も学習しなければならないこと、児童福祉法の改正においてその第一条に「子どもの権利条約」に基づくということで法律に明記されたことが極めて重要であることも確認した。

自らの体験から子どもの声を聴くとは、おどなが勝手に良かれと思って子どものために行ったことが、子どもにとっては必ずしも最善の利益にはならないこと、だから何かを行う前に、目の前の子どもの声を聴くことが重要であるということで締めくくりました。

◇代表挨拶：草野篤子◇

「小選挙区制のわな」を出版された草野先生は、スエーデンにおいて行われている選挙で、移民や難民を排除するように要求している政党が票を伸ばしていることに触れました。その中で、公園の遊具は子どもたちが決めるということが一般的に行われている中で、国会議員もしっかりと声を聴くというシステムが大事であることを強調しました。

◇コミュニティ・タクシーの取組みについて：岩井◇

小平市が進めている小平南西地区にコミュニティタクを走ら

せる会の委員をされている岩井さんから、これまでの取り組みとこれからの展望についてパワーポイントを使って説明がありました。

7月末から始まった試行運転から2ヶ月が経過し、平均1日30人は乗るものの、目標とする50人にはまだまだ距離があり、更に増やしていく必要があることが述べ

られました。

◇ブロックごとの相談◇

最後に各ブロックに分かれての相談となりました。それぞれ課題があり、長いところは8時過ぎまでかかって話し合いました。次回は12月18日であることを確認して閉会となりました。

きよかバザー

9月30日(日)前日に台風が直撃し、白梅学園大学のオープンキャンパス(高校生がやってきて大学の説明を聞く会)が中止になるという中でのバザーでした。所狭しと並んだ品々は、心ある方々からの寄付で集まったもの



で、食器や洋服、バッグなど様々なものが並びました。あらためて物を有効に使うことの大切さを感じさせられました。スタッフから当日の感想が寄せられています。

バザー当日きよかの一室は、衣料品、靴、バッグ、食器、雑貨等々の提供品がところ狭しと並んでいて、なんでも屋さんの雰囲気です。バザー品を提供してくださっ



た方々に感謝です。

きよかのスタッフTさんがカリスマ店員さんからの接客です。「お似合いよ」「新品です」「サイズぴったりです」「クリーニング済ですよ」、おぼさんの私もすっかりその気になり鏡を見たり、普段とは違う服選びにバザーの楽しさを満喫。とにかく安いのは魅力です。小銭持ちのおぼさんのサイフも緩みます。わずかな金額でも、少しはお役に立てるかな？

来店の皆様とのコミュニケーションを楽しみつつ、店員になったりお客になったりのひと時でした。(きよかスタッフ T・H)

「分かったかい」ある日の授業風景

石川貞子（分かったかい講師）

「分かったかい」は5年目を迎えました。木曜日夕方6時になると、小6～中学生たちが小川公民館に集まってきます。すぐに2つの部屋に分かれて、持ってきた宿題やそれぞれの勉強を自主的・自覚的に始めます。講師陣は12人くらいが入れ替わりですが見守りながら「自分で勉強できる力を身につけること」を中心にして指導しています。

ある日の授業風景の一コマですが、もうすぐテストという中学生にたいしてお姉さん先生が「ここは覚えておいて、用紙にメモ書きすると分かりやすいよ」「漢字の読み方・覚え方はこんな風にすると覚えやすいよ」などとヒントを入れながら教えてくれています。「おしかったね。間違えやすい漢字はまたもう一度書いてごらん。」「あと2問、時間内に解けるからがんばれ！ただ見ているだけ

より書いた方が覚えられるよ」の的確な助言・指導に子どもたちは質問もしながら、一つ一つ納得

して勉強を進めています。

受験生チャレンジ支援貸付制度をご存知ですか？（東京都の制度です）

中学三年生・高校三年生を対象に、塾の費用や受験料の貸付を無利子で行う制度が東京都にあります。

貸付内容は、学習塾等受講料貸付金（貸付限度額 200,000 円）、

受験料貸付金（高校・27400 円上限）・大学 80,000 円上限）

高校・大学に入学した場合は返済が免除されます（一定の適格要件がありますので、小平市社会福祉協議会・こたいら生活相談支援センター：042-344-1217 にご相談をしてください。）パンフレットを「分かった会」にも準備しています。

なお、申し込み締め切りもありますのでご相談はお早めに！

最近の分かった会：奈良勝行



「2013 年 12 月 12 日に分かった会がスタートし、来月「5 歳の誕生日」を迎えます。開講数は、火曜日のあすなろ

会を含めて延べ 300 回近くになります。これも講師の皆さんの熱心・親身な指導のおかげです。この 5 年間に途中で出入りした生徒もいますが、修了して高校進学した生徒はおよそ 30 人です。ささやかな成果ですが……。その高校生が分かった会にまた参加してくれるのは嬉しいものです。今の課題はなんといっても講師の不足。何とか知恵を出し合って今の倍の 20 人にしたい、そうすれば、マンツーマンの指導や、希望する生徒を受け入れることができます。講師は別に教員免許の保持は問いません、生徒のそばにいて見守っていただければ結構です。西ネットの皆さん、ご協力をお願いします！」

小川駅西口再開発、住民が安全便利で賑わい

豊かなつながりを持てるまちづくりへ

市民の意見、提案などを大いに寄せましょう。

西ネット第1ブロック世話人 西克彦

今、小川西・東町、栄・小川町などの地域では、小川駅西口再開発事業と絡んで周辺のまちづくり事業、およびその事業の核ともいえる約100メートルの高層マンションビルの中の4、5階部に現在の西部センター（公民館、図書館、出張所）機能と小川東元気村の機能の一部も移転させようとする「公共施設のマネジメント施策」計画（将来人口の減と施設の耐用年数対策）をめぐって、様々な形の市民の意見・声をもとにした検討が行われています。

市は、小川においては、周辺の住民、各施設や事業所、施設の利用者などの市民の声の集約や、いわゆるフェシリテイターなども入れた形での市民参加やワークショップ

プなども行われていますが、まだまだスタート直後であり、実際のユニバーサルデザイン（バリアフリー）や駅やビルの動線やつながり、道路の形状、賑わいとしての営業や

事業者側の考えなどもこれからの大きな課題になっています。特にこの再開発と小川駅の改築計画の内容や進め方も、住民にとっては切実な関心事です。

公共施設のマネジメント計画では、小川地域と市の中央地域の施設の扱いの問題も同時に検討課題として、全市的な検討を行い、来年2019年の8月ごろには素案をまとめ、パブリックコメントにのせる手続きを予定しているようです。

町の主人公は市民であり、高齢者の多い時代の取り

組み方もきわめて切実に求められていると痛感しています。上記のような市の行う「市民参加」も貴重な参加機会でもあります。まず大いに関心を寄せていただき、質問・疑問・ご提案

など大いにお寄せ下さい。

ご一緒に、考えていき、少しでも市民の願いを活かしていきましょう。

映画「ケアニン」を鑑賞して

朝鮮大学校 短期学部一年生



白梅学園大学・短期大学の学園祭で映画「ケアニン」の上映会がありました。朝鮮大学校の先生と学生が参加され、その感想を寄せてくれました。

映画を観て、「介護」とは厳しくとても

大変なことではあるが、同時に、やりがいのある仕事だと思いました。大切なのは、その人個人を尊重することであり、そのためには利用者をよく理解すること、その人の生きざまを知り、よりよい人生を送れるよう少しでも手助けできる介護を心がけなくてはいけないことを学びました。

そこで必要とされる能力の一つがコミュニケーション力だと思います。高齢者(利用者)一人一人の性格を把握し、その人に応じたケアをするためにもコミュニケーションは必要不可欠です。高齢者だけではなく、その家族

や共に働くスタッフたちとの関係を深めるための手段としてもコミュニケーションは重要な役割をします。

私は人とのコミュニケーションがあまり得意ではないので、今後この力を大学生活で培っていきたいと感じました。また、その人の持っている力を制限する(何でもやる)のではなく、その力を最大限に生かせるよう工夫することが大事だと思いました。

世の中には「高齢者」や「障害者」と聞いただけで差別する人がいます。しかし彼らと接し触れ合うことで考えが変わる可能性は十分にあります。

私は在日同胞障害者たちの音楽サークル「Tutti(テュッティ)」に所属しています。月に一度彼らと接しながら切に思うことは、彼らが心安らぎ真に安心できる場を創りあげるといことです。そういう場、障害の有無や老若男女関わらず、みんなが共生していける社会づくりのため、私たち若者が貢献していけたら良いと感じています。

「ケアニン」を観てその気持ちが更に強まりました。また、利用者たちの心に寄り添い、笑顔あふれる介護ができるケアニンを目指して頑張っていきたいと思いました。

ありがとうございました。

平成最後の“世代間交流コミュニティカフェ”が開催されました

白梅学園大学文化創造ホールにて

授業担当教員 森山千賀子



12月5日 13時～14時、子ども学部家族・地域



リースは持ち帰ってもらいました。

子ども学部家族・地域支援学科 2年の授業科目である「世代間交流演習」において、地域のディサービスオリーブ鷹の台の利用者の方をお迎えして“世代間交流コミュニティカフェ”が開催されました。今年度は、5月6月7月11月12月と行ってきました。来年の

5月まで開催がないため、平成最後の開催です。

今回は学生のグループごとに3つの企画が催されました。A班はクリスマスリースづくり、B班はジェスチャーゲーム、C班は列対抗風船渡し伝言ゲームでした。企画の順番、催しごとの合間のお手洗い休憩への促しなど、5回目になると進行役の学生の間のとり方も上手になってきました。また、顔見知りの利用者の方も増え、学生との間では「お願いします。」等の会話がスムーズに聞こえてきました。

以下、実行委員のメンバーからの感想です。お題は「トナカイ」



「はっけよいのこった」とお相撲のジェスチャー？

- ・コミュニティカフェは、介護に関わっている学生に関わらず、色々な学生も交えて世代間交流ができていることが利点。・みんなのコミュニケーション能力が高まっている。
- ・大学生が運営企画をしているからテンションがあがる。その影響で高齢者の方の笑顔が増えていると思う。
- ・回を重ねることで、同じ企画でもやり方を工夫することより、企画の内容が利用者の方に伝わり易くなっていった。
- ・世代間交流という授業があってできることで、自分から発信したい時に、選択肢の一つになる。運営をするには大変だけど、これから役に立つと思う。
- ・今は自分たちと高齢者で繋がっているが、子どもや他世代になると地域福祉が広がっていくと思う。

2018年もあと少しです。メリークリスマス。良いお年をお迎えください。

白梅子育て広場「絵本の世界」開催

11月あそぼうかい
子ども学科1年 藤野夏季



白梅子育て広場では11月24日(土)「絵本の世界」をテーマとした11月あそぼうかい&世代間交流広場イベントを行いました。連休の中日ということもあり思ったより参加者さんの人数は伸びませんでした。参加者さんと学生との距離が近くなり、より良い交流ができました。

今回の11月あそぼうかいでは絵本の世界への導入として入り口に大きな絵本のゲートを作りました。室内では絵本の「はらぺこあおむし」「ぐりとぐら」「がらがらどん」をイメージした遊びコーナーや制作コーナーをご用意しました。子どもたちに限らず、保護者や高齢者の参加者さんにも楽しんでいただけた。

ちょっと休憩、という皆さんのため、乳児のお子さんでも安心してお昼寝できるようなスペースを確保し、オルゴール音楽を流してリラックスした環境を作りました。今回

のホットスペースでは折り紙ができるスペースを作り、ゆったりしながら遊ぶことができる環境もご用意しました。

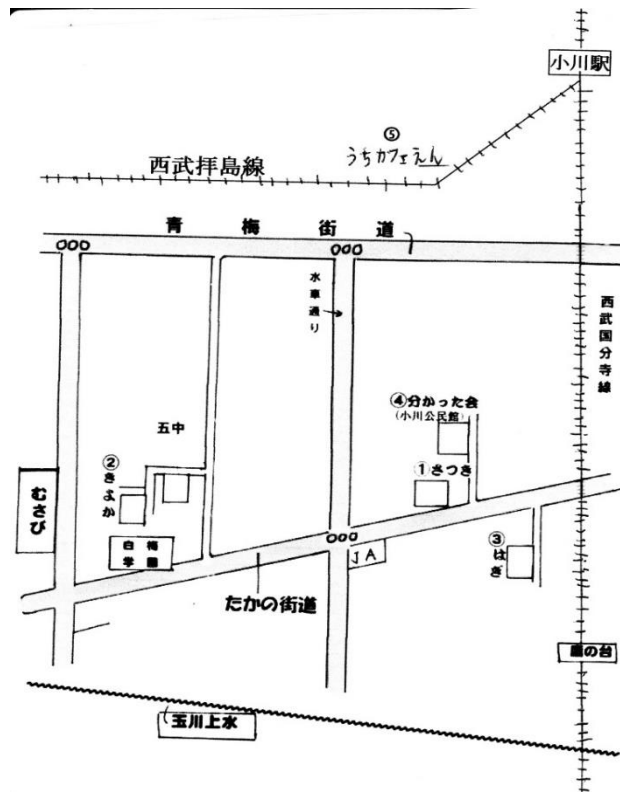


一人でも多くの皆さんに絵本の世界を感じ、楽しんでもらいたい想いで多くの学生が頑張りました。今回のイベントを通して、私は学生のみならずイベントを企画するのみだけでなく、参加者さんの皆さんと楽しい時間を過ごすことができました。今年度のあそぼうかいりは最後となりました。次回のあそぼうかいりは来年度の4月となります。また次回のイベントでも学生一丸となって頑張りますのでよろしくお願い致します。

皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております! (右の地図を参照)

- ① ほっとスペースさつき
毎週火曜と木曜 10:00~16:00
問い合わせ: 渡辺 穂積
TEL: 042-344-7412
- ② ほっとスペースきよか
毎週月曜 10:00~15:30
問い合わせ: 石川 貞子
TEL: 090-7732-2089
- ③ アットホームはぎ
毎月7,17,27日: 14:00~17:00
問い合わせ: 萩谷 洋子: 042-342-1738
- ④ 「分かった会」小中無料学習教室
毎週木曜日 18:00~20:30 (小川公民館)
問い合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!)
TEL: 090-4435-4306
- ⑤ 子育てサロン「うちかフェス」(小川町)
毎週月・水・木・土 10:00~15:30分
問い合わせ: 伊藤絹代



イベントの予定

- 01月08(日) 小平第一小学校もちつき大会
- 03月15日(金) 白梅学園大学卒業式
- 10月06(日) 日本世代間交流学会(白梅学園大学にて)

西ネットの今後の予定

- 大学世話人会：01月15日(火)
- 地域世話人会：02月05日(火)
- 大学世話人会：02月19日(火)
- 懇談会：03月09日(土)

西 ネット の 世 話 人

| ブロック | 地域世話人 | 学内世話人 |
|------|--|------------------------|
| 1 | 西 克彦・丸山安三 | 瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳・山路憲夫 |
| 2 | 足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子 | 午頭潤子・土川洋子 吉村季織 |
| 3 | 石川貞子・大内智恵子・久 保田進・穂積健児・ 杉浦 博道・吉田徹 | 金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野昂哲 |
| 4 | 桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積 | 井原哲人・森山千賀子 |
| 全体 | | 奈良勝行・長谷川俊雄 |

お願い：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

投稿募集：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール：everonward.nara@xd5.sonet.ne.jp

編集後記：「小平西ネット」も2012年に設立されて7年目となり、広く地域に知られるようになってきています。私たちは、地域の取組みをつなぎながら顔の見える地域づくりを目指しています。皆様の積極的な参加をお願いします。原稿を寄せて頂いた方々、ありがとうございました(瀧口)。